



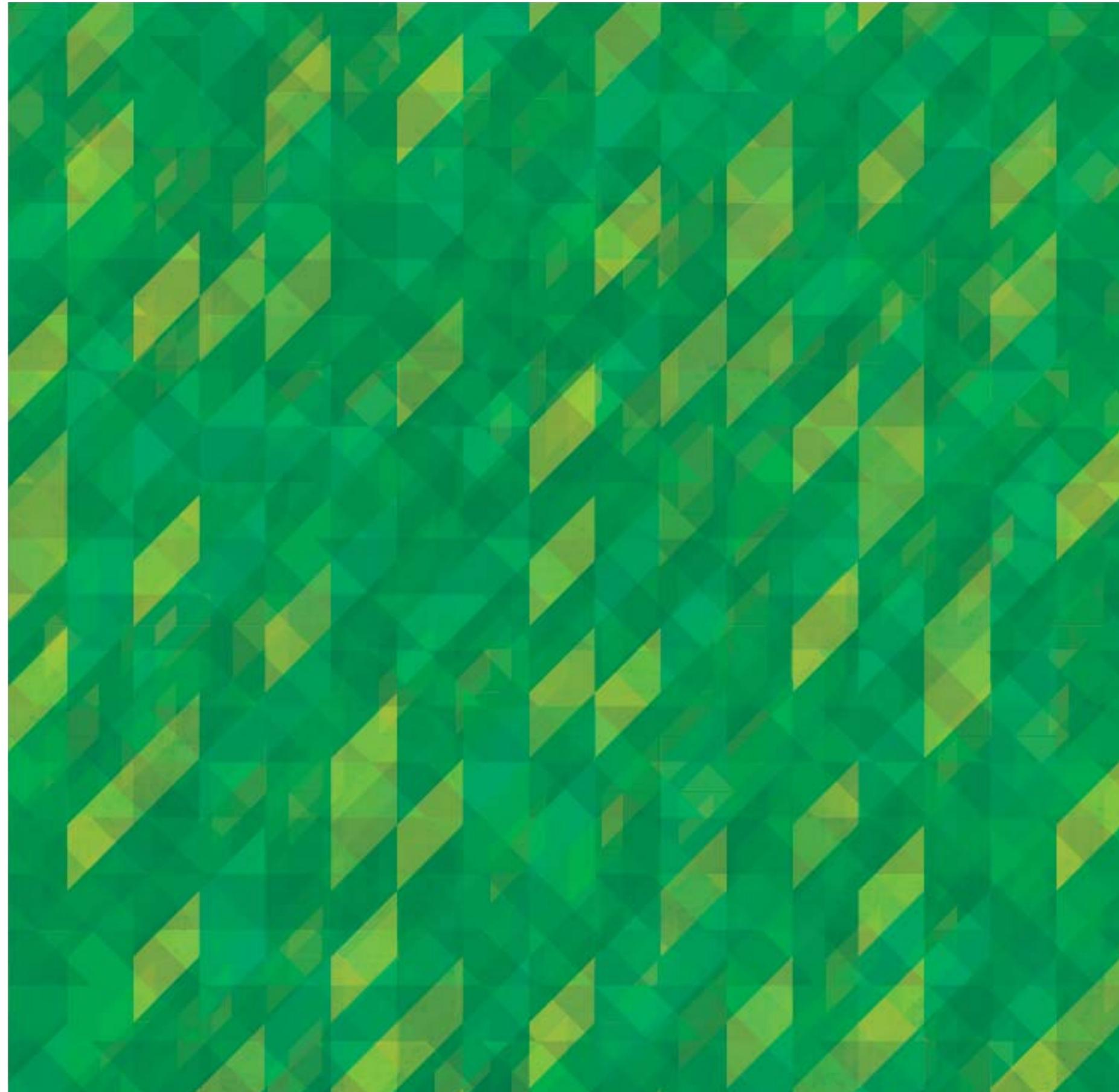
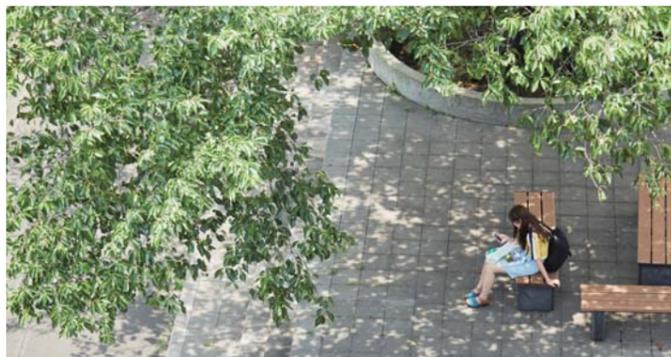
2018年8月発行
2019年2月改訂 第2版

茨城大学 広報室

〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

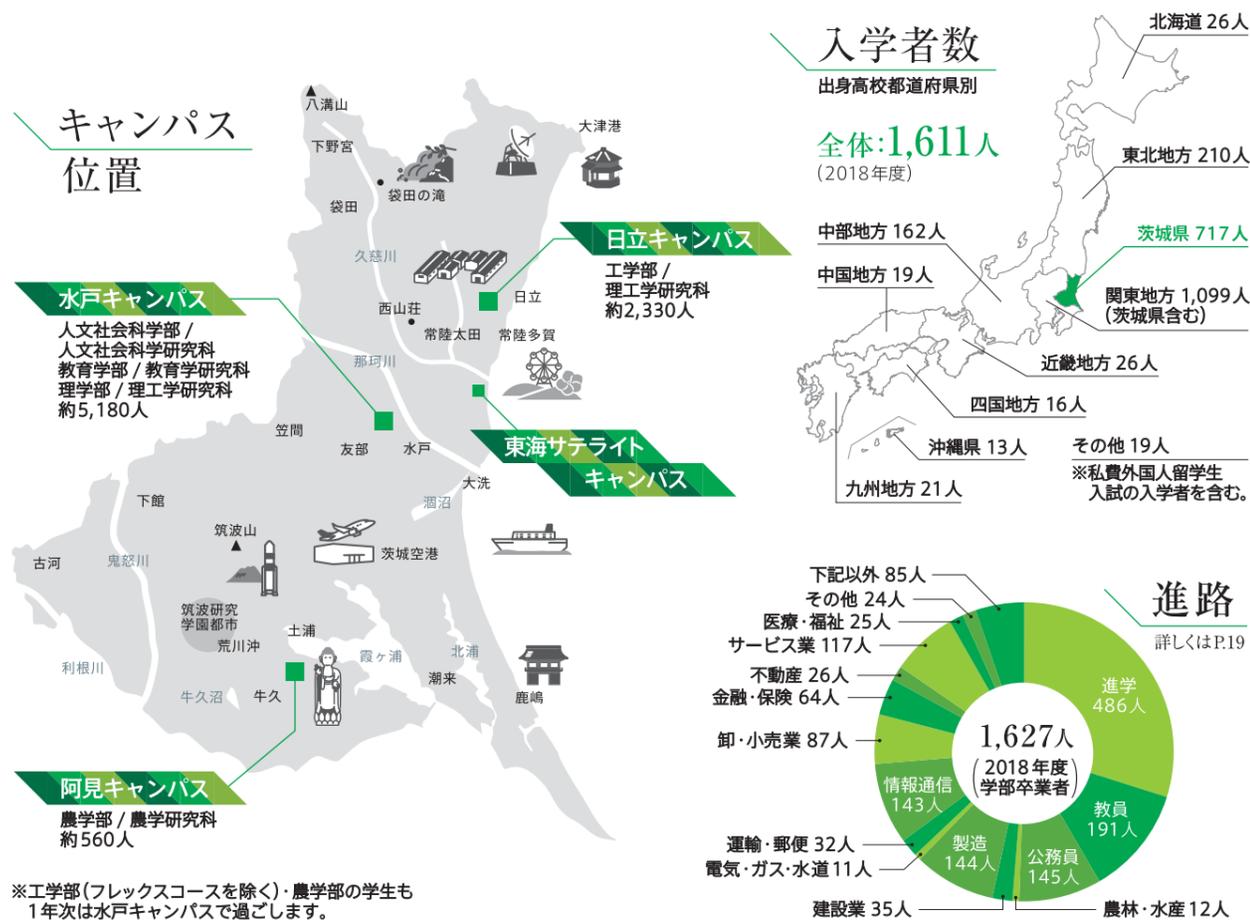
TEL 029-228-8111 (代表)

WEB <http://www.ibaraki.ac.jp/>



知の拠点として 持続可能な社会づくりと地域創生をめざす。

茨城大学は、2019年5月に創立70周年を迎える、5学部・大学院4研究科を有する総合大学です。知の拠点として地域社会と協力しながら、学生がたくましく育つ大学、世界で特色が輝く大学をめざします。



topic 1

教育改革を前進

ディプロマ・ポリシー(学位授与要件)で定めた総合的人間力をすべての学生が確実に身につけられるよう、学部・大学院の改組や、学外学修を促す「iOPクォーター」の導入などの全学的な教育改革を進めています。



topic 2

量子線科学分野の世界拠点

大学院理工学研究科では、日本で唯一の「量子線科学専攻」を開設しています。J-PARCやKEKといった世界的な研究機関と連携しながら、量子線に関する知や技術の教育研究の国際的な拠点づくりをめざしています。



topic 3

気候変動適応の研究をリード

気候変動適応法(2018年成立)などにより、地球温暖化の影響や災害に対する適応策への関心が高まっています。本学では、アジアの国々と長年適応策の研究を進めており、日越大学(ベトナム)の気候変動・開発プログラムでは日本側の幹事校を務めています。

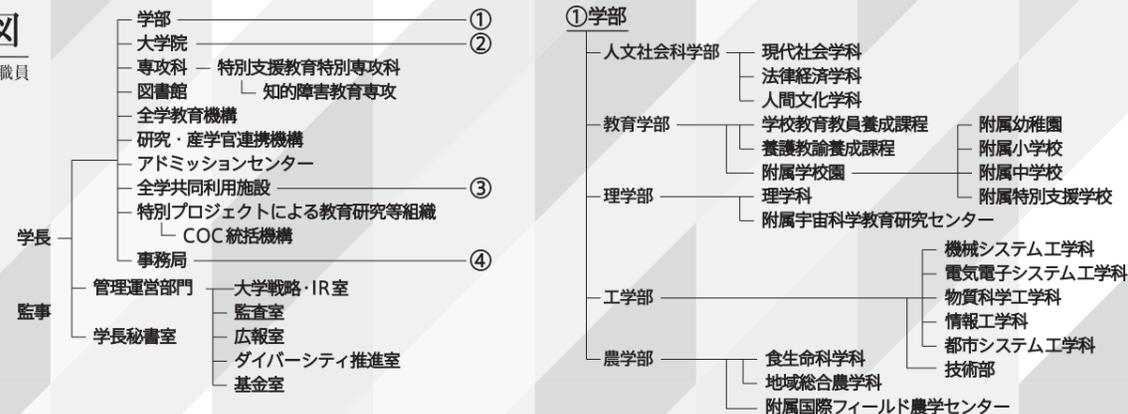


目次

概要・目次	1
特集 2019年、茨城大学は創立70周年	3
学長インタビュー	5
教育	9
学部・大学院・専攻科	11
研究	13
地域連携	15
グローバル交流	17
就職状況	19
財務・ガバナンス	20
キャンパスマップ 水戸	21
キャンパスマップ 日立	23
キャンパスマップ 阿見	25
その他の関連施設	27
キャンパススケジュール	29
茨城大学基金	30

組織図

役員・常勤教職員 926人



茨城大学は、 2019年に創立70周年を 迎えます。

地域に根ざした国立大学としての歩みを振り返りながら、
未来を展望する記念事業を展開します。

茨城大学は1949年5月31日に、旧制水戸高等学校、茨城師範学校、茨城青年師範学校、多賀工業専門学校が統合され、新制大学として発足。1952年には茨城県立農科大学が農学部として合流して、現在の骨格ができました。さらに、2024年には、各ルーツ校のうち最も歴史の古い拡充師範学校の創設から数えて、150周年の節目を迎えます。

1874年
明治7年

拡充師範学校創設

1949年
昭和24年
5月31日

茨城大学創立



創立初期の水戸キャンパス上空写真
(水戸市立博物館提供)



旧制水戸高等学校
(水戸市立博物館提供)



1999年頃の水戸キャンパス

2004年
平成16年

国立大学法人化

2019年

創立70周年

2024年

創基150周年



第一回入学式式辞 — 茨城大学 鈴木京平 初代学長

…在学中はもとより卒業後もそれだけの責任を果たさなければならない。大学は教養の高い豊かな人間の養成に努めるが、諸君自身も個性を大いに伸ばしてもらいたい。

…諸君は自由意志で、自分自身を啓発していくことだ。強制をうけなければ義務と責任が果たせないようでは困る。茨城の地は日本歴史上文教の地として異彩を放っている。

…日本文化の中心地となるような立派な学風を樹立してもらいたい。諸君こそ茨城大学の先頭である。野心満々たれ。

『茨城大学三十年史』より

茨城大学創立70周年記念事業

茨城大学の創立70周年を記念し、地域の“知の拠点”としての歴史を振り返り、将来の展望を考える機会とするとともに、未来の社会を担う学生の学修環境を向上させるキャンパス整備事業や、新しい教育のチャレンジを展開します。

1 キャンパス整備

—より快適で発展的な学修環境を実現

水戸キャンパス内の福利センター(大学生協)の増床や日立キャンパス正門周辺の景観整備、さらに阿見キャンパス内には新たな研究・教育施設「フードイノベーション棟」を新設します。



※画像はイメージ

3 茨大ビジュアル年表プロジェクト

茨城大学の歴史を、関係者へのインタビュー映像や貴重な画像資料で紹介する「茨大ビジュアル年表」を制作します。本学が社会の中で果たした役割や実績を多角的に振り返るデジタルコンテンツです。



2 はばたく茨大生たちを支える 新しい教育のチャレンジ

3年次の学生が海外研修や地域活動などに取り組む「iOP (internship Off-campus Program)」が、2019年から本格展開されます(P.9参照)。

未来へはばたく、たくましい茨大生を育てる本学の新しい教育のチャレンジに、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。



4 みんなの“イバダイ学”プロジェクト —これからの茨大を考えよう

茨大は何をめざすべきか? どうあるべきか?—そういった思索を深め、ともに共有し、語りながら茨城大学の将来像を構想してビジョンにつなげる企画です。学内外でワークショップやシンポジウムを展開し、その過程や成果を発信します。



イバダイ学

茨城大学創立70周年
記念式典を開催

【開催日】
2019年5月25日(土)
【会場】
茨城大学水戸キャンパス講堂
(水戸市文京2-1-1)

茨城大学基金 寄附のご案内

茨城大学基金では、本学の創立70周年記念事業のご寄附を受け付けています。

茨城大学基金Next StepのWEBサイト
<http://www.ibaraki.ac.jp/fund/>



茨城大学創立70周年
記念事業WEBサイト

特設WEBサイトで事業の内容や進捗状況を発信しています。

茨城大学創立70周年記念事業特設WEBサイト
<http://www.ibaraki.ac.jp/70/>



【お問い合わせ】国立大学法人 茨城大学 創立70周年-創基150周年記念事業準備室

●TEL/029-228-8811 ●FAX/029-228-8019 ●E-mail/iba-70th@ml.ibaraki.ac.jp



地域の知の拠点としての役割を果たす

茨城大学の改革と社会への貢献

「社会に貢献する大学」をめざし、着任以来、大胆な改革を推し進めてきた学長の三村信男が、教育・研究改革の成果、そして、今後茨城大学がめざしていくべき姿についてお話しします。

●三村 信男

茨城大学学長。専門分野は地球環境工学、海岸工学。国連の「気候変動に関する政府間パネル (IPCC)」で第2～5次評価報告書の主執筆者・統括主執筆者を務めた。

●聞き手／副学長 佐川泰弘



国際的なプレゼンスを向上させるためには、研究者が分野横断的な研究を進め、従来の研究分野の融合により、新技術の開発やグローバルな課題の解決に挑んでいく、そのようなチャレンジを行っていくことが求められていると思います。そのためには、世界レベルに少しでも近づくよう研究資金を確保する努力を大学自身がすることや、研究への公的支援の強化が必要です。

——最近、茨城大学の研究成果として大きく話題を集めているものも出てきています。

今、新聞などで話題になっているのが、「チバニアン」ですね。新たな地質年代の名前として申請しているものですが、これには、本学理学部の岡田誠教授が研究リーダーとして深く関わっています。

それから、量子線科学の分野。大学院に量子線科学専攻やそのための研究センターを創設し、東海村にある「J-PARC」という研究施設が作り出す、世界最高クラスの中性子線を活用して、物質の中の構造の分析などを行う研究を進めています。2016年には「茨城大学国際量子線科学シンポジウム」の開催を始め、徐々に参加国も広がり、量子線科学の国際拠点化を推進しています。

——ベトナムに設立された日越大学での本学の取り組みもいよいよスタートします。

ハノイに3年前に設立された日越大学(VJU)の気候変動・開発プログラムの日本側の幹事校を、茨城大学が務めます。本学で長く研究を続けてきた気候変動や地球環境の分野の研究・教育を世界へ大きく展開します。

ほかにも、大手企業と共同で自動運転の技術研究を始めていて、その成果にも期待をしているところです。

こうした研究の成果を、本学の世界的な強みとしていきたいと思っています。

改革に着手するときに、我々は何に向かって教育をするのかという目標をはっきり定めることが必要だと痛感し、この「ディプロマ・ポリシー」を定めました。個々の学部や学科ごとではなく、大学全体の目標を定めたということが大きな出発点になりました。

——次の世代の人たちにとって必要な能力や姿勢を5つにまとめ、「茨城大学型基盤学力」としました。

茨城大学に入学した学生は、どの学部でもこの5つを目標に学修するようにしました。これが前述した総合的人間力の内容で、学生が直面するいろいろな課題について、分野を越えて探究し、解決する能力を養う教育改革の基になっていると思っています。

茨城大学型基盤学力

Diploma Policy

-  世界の俯瞰的理解
-  専門分野の学力
-  課題解決能力・コミュニケーション力
-  社会人としての姿勢
-  地域活性化志向

——20年ぶりに学部や大学院の大きな改組にも着手しました。

佐川副学長も2017年当時の人文学部長として人文社会科学部への改組、メジャー・サブメジャー制のような先進的な仕組みの導入に力を尽くしてもらいました。同様のことを教育学部、工学部、農学部、理工学研究科などほぼすべての学部、大学院で行っています。

世界的な強みとなる研究成果を生み出す

——近年、国際的な大学ランキングにおける日本の大学のプレゼンスも低下している中、教育と並んで研究面での強化も求められていますね。

社会の変化と大学への期待

——社会・経済のグローバル化が急速に進む中、大学・高等教育への期待がかつてないほど高まっていると感じられます。

そうですね。第4次産業革命やSociety5.0という言葉で表現されますが、人工知能やビッグデータ、ロボットなどが産業のベースとなる社会に向かって、さまざまな事柄が急激に変化し、社会が大きな変革期を迎えています。

そんな中で新しい社会を支えるための人材を、ぜひ大学から送り出してほしいという期待の高まりを私も強く感じています。

茨城大学にとっても、それに応えていくことが大きな使命だと考えています。

——次の社会に適応する教育を行う場となるために、大学に求められるのはどんなことでしょうか。

日本は教育立国であり、明治以来、大学も含めた教育が日本社会の発展を支えてきました。

ただ、これまでの教育は専門分野の知識を教えることが中心でしたが、これからは自分で考え、行動する人間の育成が必要です。ひとことで言えば、単に知識を教える教育から、学生が自ら学ぶ教育に転換する必要があるということです。

——具体的にはどういう内容になるでしょうか。

私は総合的な人間力の育成と言っています。これからの学生が備えるべき能力は、深い知的な基礎、広い視野、そして、それらを活かして社会と積極的に関わる意欲とスキルだと考えています。

実は、このような総合的な人間力の育成については、これまでの大学教育の中ではあまり意識されてきませんでした。今取り組んでいる教育改革は大学にとって新しいチャレンジになりますし、大学教育をもっと魅力的なものにするチャンスにもなっていると思っています。

総合的な人間力を育てる教育改革

——そのような考えの下、本学では三村学長の就任以来、さまざまな教育改革に取り組んできました。

そうですね。社会の変化に合わせて、まずは学部・大学院といった教育の器そのものを変えるということ、そして、教育の中身についても、次の社会を支える人材を育成するものに変えることに力を注いできました。

——その改革のひとつの象徴となるのが、2015年に策定した「ディプロマ・ポリシー」(学位授与要件)ですね。



「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」は、現在、茨城県内の13の高等教育機関で組織している。

地域社会との密接な連携

——世界を視野に入れた研究成果をあげる一方で、地方にある国立大学として、地域社会との密接な関係の構築も欠かせません。

そうですね。大学の教育研究を通じて、持続可能な地域の発展に寄与することが、この茨城という地域にある大学として果たすべき役割だと思っています。

茨城県は、農業については全国2位の産出額を誇り、工業でも非常に高い生産性を維持しています。将来、人口減少が予想されていますが、この豊かな地域基盤を活かして、どうやって地域の活力を維持するか。そこに本学がどのように寄与するかが大きな課題だと考えています。具体的にいえば、農業面では、茨城県の強みを世界に向けて活かすため、農学部では農産物の輸出に不可欠な国際認証であるGAPやHACCPに関する教育研究を開始しています。また、日立キャンパスにある工学部では革新的エンジンなどのモノづくり、AIを活用した金融技術などユニークな研究を進めています。

——本学独自の取り組みを進めるほか、県内の他大学・高専と協力して「いばらき地域づくり大学・高専コンソーシアム」を立ち上げて、その活動も始めました。

地域の活性化というのは、ひとつの大学だけでできるものではありません。いろいろな人の力を合わせて、いわば総力戦でやる必要があると思います。そのために、県内の大学や高専とコンソーシアムをつくったり、地域のパートナー企業とのネットワークを組んで協働することにも力を入れています。

——そのような背景で、本学が始めた「茨城学」が注目を集めているようです。

これも教育改革の中で、1年次生の必修科目として始めたものです。今年(2018年)で4年目になりますが、「茨城学」というのは、自らの地域のことを知ると同時に、1年次生のときから、地域の現実の問題に触れて、我々は何を考えなくてはいけないかということを考える授業です。社会と自分の学ぶ学問をつなぐという目的を持っています。

——それを知った社会人の方々から「大人の茨城学」をやってほしいという話も持ち上がりました。

転勤で茨城県に来たばかりであり茨城のことがわからない方に役立つ講座をやってほしいという声が上がりました。それで、今年から、茨城県経営者協会の記念事業として「いばらき塾」を開講するというので、本学が協力する運びになりました。これは、地域で会社の経営や自治体の施策を担当する方々と、我々大学が、一緒になって議論する場として非常に重要なものになっていると思っています。

——本学によるリカレント教育(社会人の学びなおし)の需要がさらに高まっていきそうですね。

今は、社会人になって仕事を続けていく中で新しい知識が必要となる時代です。地域や産業界からどういうニーズが高まっているのかをよく調べて、企業や自治体に勤務する方に向けてリカレント教育の講座を開くことにも、積極的に取り組んでいくべきだと考えています。



聞き手
佐川 泰弘

茨城大学副学長、大学戦略・IR室長、広報室長。専門分野は政治学、行政学。2018年3月までは人文社会科学部長を務め、50年ぶりとなる学部改組で中心的な役割を担った。

地域の知の拠点としての挑戦

——最後に、2019年に茨城大学は創立70周年を迎えます。70周年を迎えるにあたっての取り組み、また、今後本学が果たすべき役割について聞かせてください。

私が教育改革を始めるときに掲げたのは、「地域創生の知の拠点となる大学、その中で世界的な強み・特色が輝く大学の構築」というビジョンでした。これからの目標は、まさにそれを実現するということです。端的に言えば、“次世代を育てる新しい教育”と“先端的な研究”の両面で、社会に貢献する大学になるということです。茨城大学は、1949年(昭和24年)に、旧制の水戸高等学校、茨城師範学校、茨城青年師範学校及び多賀工業専門学校の4つが集まって創設され、後に県立農科大学が合流しました。戦後間もない時期に新しい大学をこの地

域につくりたいという地元の熱気があり、それが県政を動かして創設が実現しました。当時の鈴木京平学長が、最初の入学式の式辞でこのように言っています。「茨城の地は、日本歴史上文教の地として異彩を放っている。皆さんの中から大発明家が出、大政治家が生まれたとしても、なんの不思議もない。時勢は移り世は変わったが、日本文化の中心となるような立派な学風をつくってほしい。野心満々たれ」と。70年の歴史の中で、茨城大学は、この地でどのような役割を果たしてきたのか——これを機にあらためて確認したいと思います。その中で、今後、我々がどのように社会に貢献していくのかという方向性を、より明確に見定めることができると思っています。茨城の知の拠点として、地域の中にある問題を解くという役割と、世界で輝く成果を発信することで社会の変化をリードする役割、その両方を担い、今後ますます茨城の発展に力強く貢献していきたいと考えています。

Where They Talked



「五浦コーヒー」カップオン5パック入800円(税込)。売り上げの一部は岡倉天心遺跡の保全や教育普及・研究活動に役立てられます。

サザコーヒー 茨城大学ライブラリーカフェ店

この対談は、茨城大学水戸キャンパス図書館本館1階のサザコーヒー・茨城大学ライブラリーカフェ店で行いました。2人が飲んでいるのは、茨城大学が株式会社サザコーヒーと共同開発した「五浦^{いづら}コーヒー」。岡倉天心ゆかりの北茨城市・五浦地域のブランディング事業の一環として、「茨城大学国際 岡倉天心シンポジウム2016」にあわせて開発しました。天心がボストン美術館に勤めた20世紀初頭の米国のコーヒーをイメージしたシティ・ローストの味わいが楽しめます。

●MAP/P.21 水戸キャンパス●

茨城大学の教育

変化の激しい社会をたくましく生きる力を確実に身につける
独自の教育質保証システム

— 授業外の学びも積極サポート キャンパスライフすべてが学びの場

茨城大学では、すべての学生が卒業までに身につけるべき能力として、変化の激しい社会をたくましく生きるために必要な5つの茨城大学型基盤学力を定め、ディプロマ・ポリシー(学位授与要件)としています。茨城大学のすべてのカリキュラムは、この5つの力を確実に身につけられるよう設計されており、教員は個人・組織の両面で自分たちの授業内容をレビューし、恒常的な授業改善に取り組んでいます。この教育質保証のシステムは、文部科学省の大学教育再生加速プログラム(AP)のモデル事業として、他大学などからも関心を集めている茨城大学の大きな強みです。

茨城大学型基盤学力

Diploma Policy

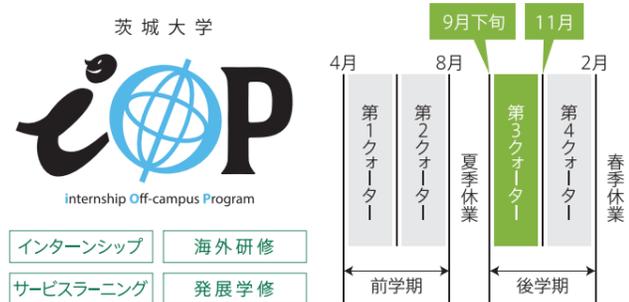
-  世界の俯瞰的理解
-  専門分野の学力
-  課題解決能力・コミュニケーション力
-  社会人としての姿勢
-  地域活性化志向

pick up

茨大生が一斉に地域へ、世界へ。

キャンパス外でも学びを深める「iOP」

2017年にスタートした茨城大学の新しいカリキュラムでは、学部3年次の第3クォーター(9月下旬～11月)をiOP(Internship Off-campus Program)クォーターと呼び、原則的に必修科目は開講せず、学内外での長期的でアクティブな学修活動を支援します。



大学での学び方を学ぶ 「大学入門ゼミ」

1年次の必修科目。主体的な学びや資料検索の方法、レポート作成のポイントなど、高校までとは異なる大学での学修のスタイルを学び、身につけます。



地域から世界が見えてくる 「茨城学」

1年次の必修科目として、具体的な地域の課題に触れ、ディスカッションを通して理解を深める授業「茨城学」が開講されています。夏休みを活用した地域現場での活動とあわせて深い学びにつながります。



実践的な英語力が身につく 「プラクティカル・イングリッシュ」

アクティブ・ラーニング形式で実践的な英語力を身につけます。あわせて授業以外でも多様な学修・相談プログラムが用意されています。1年次と3年次には全員がTOEICを受検し、習得度を測ります。



自らのキャリアを見つめる 「ライフデザイン」

3年次の必修科目「ライフデザイン」は、就職活動を念頭に置きながら、大学時代に身につけておくべき多様な分野や価値観、社会の常識、マナーなどを学ぶとともに、自らの将来について思いを巡らせます。



すべてが大切な学修の場 — 学生の個性が輝く学生中心の大学として、授業外の学びや活動も積極サポート



経済的な支援

家庭の経済状況にとらわれず安心して学べるよう授業料免除や奨学金の仕組みを充実させています。



課外活動

サークルなどの課外活動をサポートする施設を各キャンパスに設けています。多くの学生が大会などで活躍中です。



キャリア支援

キャリアカウンセラーによる相談対応や各種セミナー・イベントの開催を通じて学生の進路決定をサポートします。



障害のある学生の支援

学生が学生を支援するピアサポートなどを通じて、ひとりひとりのニーズに応じた支援体制を整備しています。



グローバル教育

他大学等との国際的なネットワークや留学のための経済的な支援を通じて、海外にはばたく学生の学修を支援します(P.17参照)。

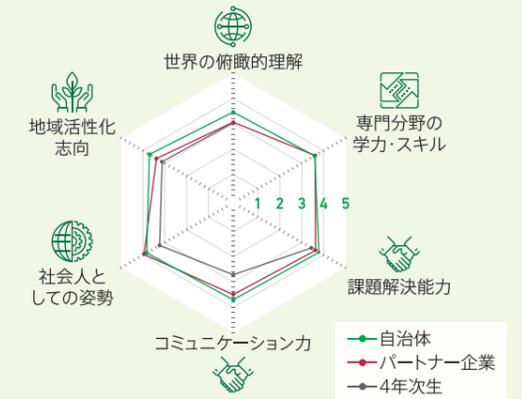


心身の健康サポート

保健管理センターでは医師や看護師、カウンセラーが心やからだの相談に対応します。

就職先から見た本学卒業生の評価は 学生の自己評価よりも高い傾向に。

本学では在学生、卒業生、パートナー企業約50社、県内自治体に対して定期的にアンケートを行い、ディプロマ・ポリシーで定めた能力や姿勢を、本学学生や卒業生がどの程度身につけているかを継続的に調査しています。右図は2016年度に実施した調査の結果です。企業や自治体では、本学卒業生がそれぞれの力をバランスよく身につけていると評価していることがわかります。それに対して4年次生の自己評価はやや低い傾向が見られます。こうした調査を在学生にも示し、自信や満足度を高める取り組みを推進していきます。



check!



茨城大学コミットメント — 入学式の日にあわす教育の約束

茨城大学では、ディプロマ・ポリシーで定めた5つの基盤学力と教育の仕組みを理解してもらいイベントとして、入学式の日「コミットメントセレモニー」を行っています。「茨城大学コミットメント」は、学生・教職員・地域のパートナーシップによって必要な力を身につけるための教育の約束です。新入生には「コミットメントブック」が配られ、式場の全員で記念撮影をして、新しいキャンパスライフを迎えることとなります。

●WEB / <http://www.ibaraki.ac.jp/commit/> ●twitter / @IBADAI_commit

学部

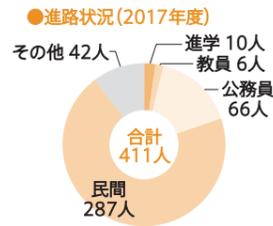
全学のディプロマ・ポリシーに応じて各学部とも目標を掲げ、コースやカリキュラムを充実させています。



人文社会科学部 水戸キャンパス

主専攻分野の「メジャー」に加えて異分野の「サブメジャー」(副専攻)も選ぶ制度により、社会の課題を把握し、解決する高い能力と俯瞰的な視野を育てます。

- [現代社会学科] [法律経済学科]
- メディア文化メジャー/国際・地域共創メジャー 法学メジャー/経済学・経営学メジャー
- [人間文化学科]
- 文芸・思想メジャー/歴史・考古学メジャー/心理・人間科学メジャー



教育学部 水戸キャンパス

複雑化する教育問題に対処するため、専門的知識と広い視野を伴う実践的指導力を持った教員を育成。地域と連携し、教育実習以外にも学校現場で学ぶ機会を充実させています。

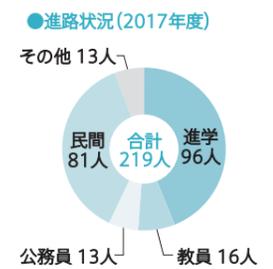
- [学校教育教員養成課程]
- 教育実践科学コース/教科教育コース/特別支援教育コース
- [養護教諭養成課程]



理学部 水戸キャンパス

従来の学科の枠組みを取り払った「1学科6コース制」により、社会のさまざまな分野で活躍できる、高い専門知識と問題解決能力を持った理学のスペシャリストを輩出しています。

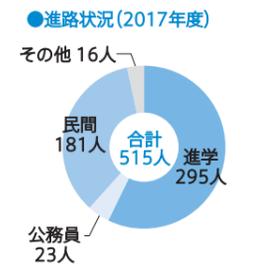
- [理学科]
- 数学・情報数理コース/物理学コース/化学コース/生物科学コース/地球環境科学コース/学際理学コース



工学部 日立キャンパス (1年次(フレックスコースを除く)は水戸キャンパス)

2018年度に5学科へ改組。AIやビッグデータなどの情報教育を強化し、大学院を含めた6年一貫の教育を念頭に、新たな社会の基盤づくりを担う高度技術者・研究者を育てます。

- [機械システム工学科] [電気電子システム工学科]
- [物質科学工学科] [情報工学科] [都市システム工学科]
- [機械システム工学科(フレックスコース)]



農学部 阿見キャンパス (1年次は水戸キャンパス)

食・農業の国際化・高度化が急速に進む中、世界と地域で活躍できる実務型農学系人材の育成をめざし、生産・加工の国際認証などにも対応した新たな農学教育に取り組んでいます。

- [食生命科学科]
- 国際食産業科学コース/バイオサイエンスコース
- [地域総合農学科]
- 農業科学コース/地域共生コース



大学院・専攻科

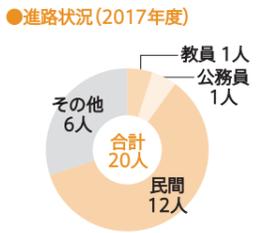
社会をリードする高度な専門職業人や研究者を育てます。



人文社会科学研究科 水戸キャンパス

- 修士課程
- [文化科学専攻] [社会科学専攻]

2017年度から社会人向けコースも開設し、茨城県内自治体の職員が地域づくりを実践的に学修・研究しています。



教育学研究科 水戸キャンパス

- 修士課程
- [障害児教育専攻] [教科教育専攻] [養護教育専攻] [学校臨床心理専攻]
- 専門職学位課程
- [教育実践高度化専攻]

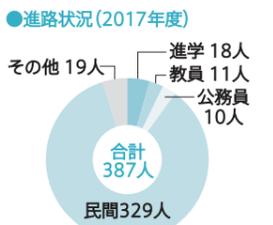
教育実践高度化専攻(教職大学院)学校運営コースでは現職派遣の教員が学び、修了後は各学校でリーダーとして活躍しています。



理工学研究科 水戸キャンパス 日立キャンパス 東海サテライトキャンパス

- 博士前期課程
- [量子線科学専攻] [理学専攻] [機械システム工学専攻]
- [電気電子システム工学専攻] [情報工学専攻] [都市システム工学専攻]
- 博士後期課程
- [量子線科学専攻] [複雑系システム科学専攻] [社会インフラシステム科学専攻]

量子線科学専攻はJ-PARCなどの機関と連携し全国的にもユニークな量子線の科学・技術の総合的教育を行っています。



農学研究科 阿見キャンパス

- 修士課程
- [農学専攻]

英語開講の科目だけで修了できるアジア展開農学コースには、アジア各国から留学生が集まっています。



連合農学研究科 阿見キャンパス

- [生物生産科学専攻] [応用生命科学専攻]
- [環境資源共生科学専攻] [農業環境工学専攻]
- [農林共生社会科学専攻]

茨城大学、宇都宮大学、東京農工大学の農学研究科修士課程が連合して、博士課程(3年)の教育・研究にあたる研究科です。

特別支援教育特別専攻科 水戸キャンパス

- [知的障害教育専攻] 特別支援学校教諭一種免許状取得コース
- 特別支援学校教諭専修免許状取得コース

現職教員や教員資格保有者などを対象として、知的障害児の教育を中心とした特別支援教育を担当できる教員を養成しています。

茨城大学の研究

世界に輝く研究を産学官金のタッグでしっかり育てる

— 新たな社会を拓くイノベーションをここから創出

AI(人工知能)の発達や気候変動、人口減少など、社会の抱える課題が複雑化して、見通しが難しくなっている中、大学が有する高度な知見や研究力に対する期待は急速に高まっています。一方で日本の大学における研究費に対する公的支援は他の先進国に比べて少なく、それらが日本の研究力の低下を招いているという指摘もあります。

こうした中、新しい可能性と社会的意義を持つ研究の芽を育て、世界に輝く成果を生み出していくためには、産学官金の連携を礎とした、短期・中期・長期の多様な期間による研究支援体制と適切な環境構築が不可欠です。茨城大学では、2018年に研究・産学官連携機構(iRIC)を新たに立ち上げました。専任教員、コーディネーター、URAを配置してきめ細やかな研究支援を行うとともに、豊かな資源を有する茨城県の地の利を活かした研究イノベーションの創出をめざします。

学内の研究シーズを発掘・発信し、若手教員等の研究活動を積極的に育てるとともに、その後の段階的かつ多様な支援制度によって、国際的・社会的にインパクトのある成果を戦略的に創出しています。



大学外からの研究資金の獲得が増加!

受託研究、共同研究、受託事業、科学研究費補助金(科研費)、寄付金、補助金といった外部資金の獲得が増加しています。これは、URA (University Research Administrator: 研究支援高度専門職) による支援強化や科研費助言制度による採択件数・金額の増加などに伴うものです。2018年1月に新設した研究・産学官連携機構は、本学の研究活動全体に関する司令塔としての役割を担うもので、共同研究・受託研究等の窓口が一元化されたことにより、今後も科学研究費補助金などの外部資金の増加が期待されます。

●外部資金受け入れ状況



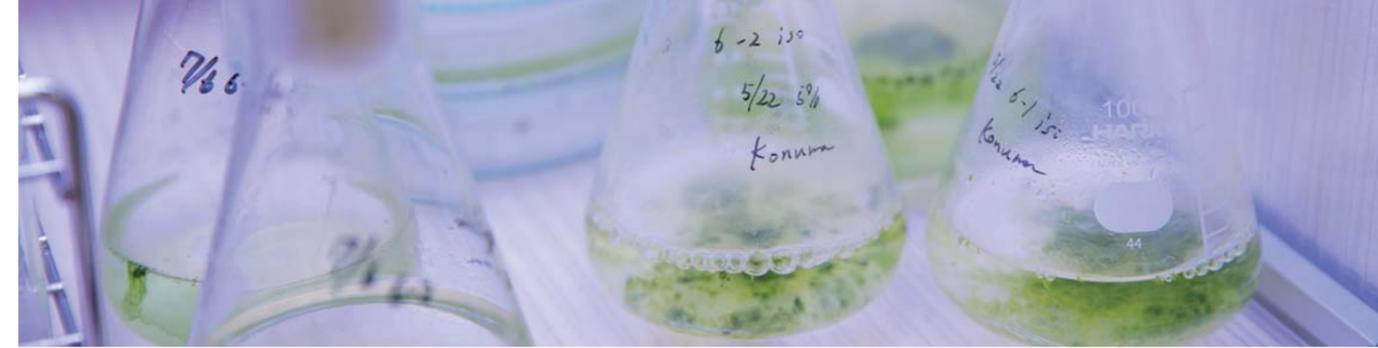
check!



研究・産業官連携機構

茨城大学の研究体制を司る組織として2018年に開設。産学官連携部門、学術研究部門、研究コンプライアンス部門の3つの部門からなり、研究支援や産学官連携のコーディネートに取り組んでいます。教員との共同研究については、機構のWEBサイトから気軽にお問い合わせください。

- TEL/029-228-8239 ●WEB/ <http://www.iric.ibaraki.ac.jp/>
- MAP/ P.23 日立キャンパス●



茨城大学の研究のグローバル展開力 — 地域の資源を活かした強みで、世界に発信



大規模施設と連携した量子線科学のパイオニア研究

茨城大学では、世界有数の大強度陽子加速器施設 J-PARC (茨城県東海村) に隣接する、東海サテライトキャンパスを開設。全国的にもユニークな大学院理工学研究科量子線科学専攻を核として、中性子・X線・ミュオンといった量子線を活かしたイノベーション創出と国際拠点構築をめざし、研究と人材育成を進めています。



アジア各国と連携し気候変動適応研究の実装化を加速

茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS)では、分野を超えた研究者が地球環境やエネルギーの研究に取り組んでいます。2018年には気候変動適応法も成立した中、本学では適応科学研究の長年の実績と国際的なネットワークを活かし、国内外の気候変動への適応策や、社会の持続可能性につながる実装化を推進していきます。

pick up

地球史に日本の地名を 古地磁気研究で「チバニアン」誕生めざす

理学部 岡田誠 教授

古地磁気学が専門の岡田教授らは、千葉県市原市の地層を地質年代区分の模式地(GSSP)にすることをめざしています。認められれば「チバニアン」という時代名が誕生します。



マヤ文明の謎を 最新技術を結集して解明

人文社会科学部 青山和夫 教授

グアテマラにあるセイバル遺跡の発掘調査により、マヤ文明の比較研究を展開。環境変動などのデータも用いて、最新技術を駆使した成果をさまざまな学術誌で発表しています。



“不器用”な子どもたちを 科学的なデータで支援する

教育学部 勝二博亮 教授

生体機能計測技術を駆使して、幼児期における書字習得のメカニズムを解明し、学習上困難に直面する子どもたちへの支援方法の開発に向けて、教科領域の研究者と取り組んでいます。



自動運転技術の“茨城モデル” 産学連携で推進を

工学部 梅比良正弘 教授

茨城大学は2016年、日立オートモティブシステムズ株式会社と「自動運転関連技術における包括的共同研究」のための協定を締結。車載用センサーの研究などを進めています。



植物由来の機能性食品素材の開発を 企業と共同で推進

農学部 中村彰宏 准教授

油脂加工食品大手の不二製油グループ本社株式会社と連携して、植物由来の機能性糖質およびタンパク質素材の研究開発を実践的に進めています。



AIの集団学習を使った フィンテックの最新モデル

工学部 鈴木智也 教授

鈴木教授は、金融の市場銘柄の価格変動データを人工知能の集団学習で分析し、最適な投資対象銘柄を選出するシミュレーションモデルを開発。国際的な賞を受賞しました。



茨城大学の地域連携

地域の知の拠点として社会とともに歩み、役割を果たす

— 研究・教育を通じた地域創生のためのプラットフォーム

茨城大学は地域の知の拠点として、人口減少や少子高齢化などの深刻な課題に向き合い、教育・研究の実践によって持続可能な地域づくりに貢献します。

多様な人びとが集まり、関連な議論をし、課題の答えを導いたり知見を高めたりすることが高等教育機関の役割です。

茨城大学も、さまざまな連携の仕組みによって、地域の多様な方々とネットワークをつくり、社会に必要とされる存在として具体的な機能を果たすことをめざします。また、地域活性化志向を持つ若者を育て、地域での活躍と定着を促すとともに、人生100年時代を見据えたりカレント教育(社会人の学びなおし)のニーズにも応え、地域の知の拠点としての責任を果たしていきます。

- …大学協定を結んでいる市町村
- …学部との協定を結んでいる市町村

茨城県と茨城大学との間でも協定を結んでいます。また、協定を結んでいない各市町村とも、さまざまな研究・教育が取り組まれています。



地域の創生は「ひと」から — 学生の地域活性化志向を育み、新たな価値を生み出す

COC・COCプラス事業



茨城大学は、2014年に文部科学省の「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に採択され、地域志向教育プログラムの整備や地域社会と連携した活動を推進しています。また、2015年には「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス事業)」にも県内の高等教育機関や茨城県、企業団体、NPO法人とともに採択され、COC事業で実施されている地域志向教育プログラムをベースとした地域協創人材の育成や茨城県内の雇用創出の向上に取り組んでいます。

茨城県学生ビジネスプランコンテスト

茨城県にかかわる中学生～大学生が提案するビジネスプランのコンテストを、茨城県と開催しています。



学生地域参画プロジェクト

茨城大学の学生による地域での主体的な活動に対し、資金面や活動への助言などのサポートを行っています。

学生の主体的な地域活動が2017年度に一気に拡大。

グラフは学生地域参画プロジェクトの採択件数について、2013～2017年度の5年間の推移を示しています。2016年度の後半から、プロジェクトに採択された学生たちが活動について発表し、学内外の参加者と交流する「はばたく茨大生」というイベントを開催するなど、キャンパス外での学修を支援する「iOPクォーター」(P.9参照)に向けて、学生の主体的な活動のサポートを強化しています。その結果、2017年度は採択件数が前年度比2倍の20件に増加。学部1年生も多く応募しています。

●学生地域参画プロジェクト採択件数



pickup



戦略的地域連携プロジェクト

自治体と本学教員が地域の課題に協働で取り組み、アカデミックな立場から解決策を探るプロジェクトに対し、支援を行っています。2018年度は、茨城県、高萩市、那珂市、日立市、大洗町の各自治体と連携した計10件のプロジェクトが活動しています。



図書館 土曜アカデミー

図書館では、地域住民と学生と一緒に学ぶ無料のイベント「土曜アカデミー」を開催しています。ブックカフェ、古文書講座、サイエンスカフェなど多様な企画を展開し、地域の方と学生、教職員の交流の場となっています。2018年3月には講座の開催が通算100回目を迎え、好評を博しています。



企業パートナー

地元企業とのパートナーシップを構築・強化し、共同研究や地域のニーズに即した人材育成につなげることを目的に、企業訪問と意見交換を行っています。2017年6月に実施した「茨城大学パートナーズフォーラム」には、企業約60社、約190名の参加があり、交流を深めました。



いばらき産学官金連携コーディネーター交流リーグ

産業界や大学、行政機関、金融機関などにおける「コーディネーター(CD)」などと呼ばれる専門職を相互につなぎ、交流を深め、地域産業の支援や大学での共同研究を加速させるための「いばらき産学官金連携CD交流リーグ(いばらきCDリーグ)」を立ち上げました。

check!



社会連携センター

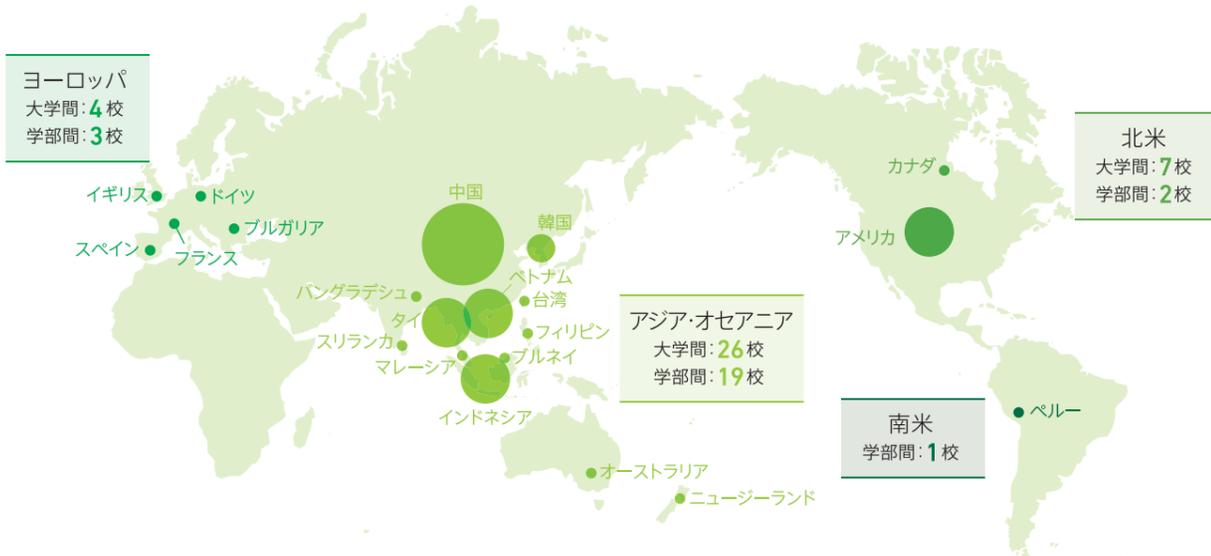
茨城大学と社会を結び窓口として、2014年に本格稼働。地域のプラットフォームの役割を果たすため、相談・コーディネート事業のほか、さまざまな自主事業も展開しています。大学との協働に関心のある方はいつでもご相談ください。

- TEL/029-228-8585 ●E-mail/renkei@ml.ibaraki.ac.jp
- WEB/https://www.scc.ibaraki.ac.jp/ ●MAP/P.21 水戸キャンパス

茨城大学のグローバル交流

社会のグローバル化に応える教育・研究の国際化

— 世界に広がるネットワーク型の国際拠点を構築



茨城大学は海外のさまざまな大学・機関と交流協定を締結しています

社会のグローバル化が急速に進む中、大学教育においても海外での学びの機会の拡充や高いコミュニケーション力の育成が不可欠になっています。また、茨城大学が国際的な強みとする研究・教育の取り組みも積極的に世界へ発信し、多様な研究者などとの交流につなげていくことが肝要です。

茨城大学では、海外21の国・地域に位置する62機関と交流協定を締結して、ネットワーク型の国際拠点を構築し、交換留学や共同研究を促進することで、グローバル水準の取り組みを推進していきます。

pickup



日越大学(VJU) 気候変動・開発プログラム

日越大学(VJU)は、日本とベトナムの両政府の合意の下、両国の複数の大学が参加・協力して設立した大学(大学院サステナビリティ学研究科)です。茨城大学は、2018年9月に開講する気候変動・開発プログラムの幹事校を務めており、カリキュラム設計、シラバスの整備、海外研修の受け入れ態勢の整備などを進めています。



AIMS(ASEAN国際学生交流事業)プログラム

AIMS(ASEAN International Mobility for Students)プログラムは、マレーシア、インドネシア、タイの各国政府共同による学生交流支援事業を起源としたアジア発の国際共同教育プログラムです。その後ベトナム、フィリピン、ブルネイ、日本(茨城大学を含む11大学)が加わりました。本学では農学部や理学部で学生の交流を行っています。



海外インターンシップ

国内での企業インターンシップの支援に留まらず、海外での就業体験やインターンシップのプログラムも提供しています。また、専門分野を活かした海外インターンシップとして、現地の大学との連携による学部独自のプログラムも実施しています。



海外へ/海外から グローバルな学びの交流を全力サポート

— 世界の俯瞰的理解とコミュニケーション力を育む

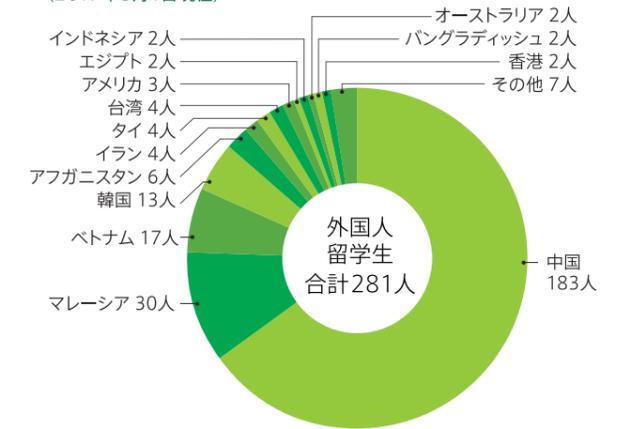
留学生の支援

県内の大学、企業、自治体、国際交流団体等と連携しながら、外国人留学生に対する日本語・日本事情教育、修学・生活上の指導助言を行っています。学生によるチューター活動も活発です。

また、各キャンパスに国際交流会館を設け、留学生本人や家族の居宅として提供するとともに、学生同士の交流を図っています。



●国別外国人留学生数 (2017年5月1日現在)

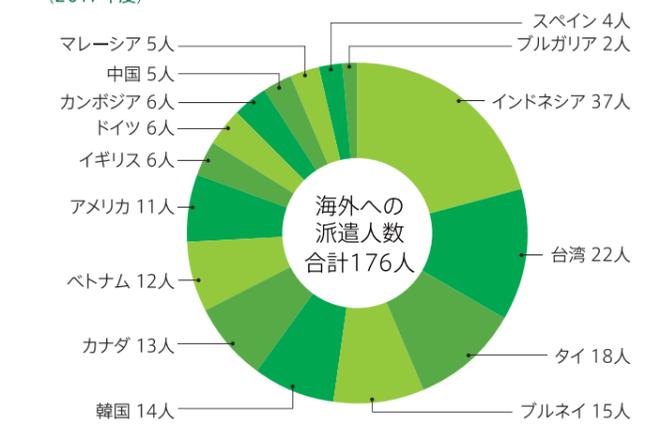


海外研修の支援

学部生や大学院生が語学研修や国際学会での発表に挑戦することを後押しするため、「茨城大学海外派遣学生旅費支援金」「茨城大学大学院生国際会議挑戦プロジェクト」などの経済面のサポートを行っています。毎年これらの制度を利用して、多くの学生が海外へはばたき、大きな成長を遂げています。



●国別海外への派遣人数 (2017年度)



check!



グローバル教育センター

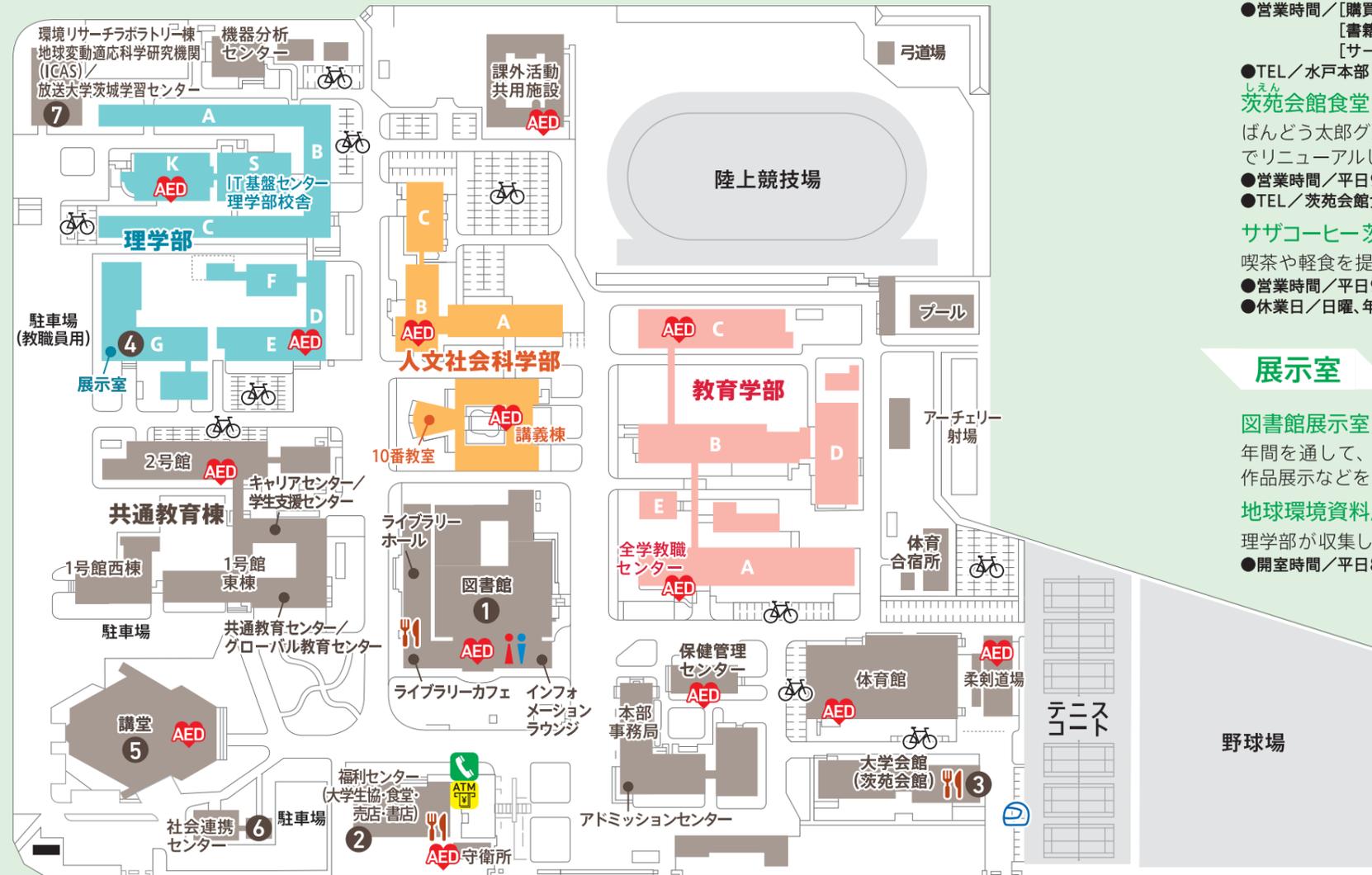
グローバル教育センターでは、茨城大学の留学生の教育・生活支援と、海外留学を希望する学生に対する情報提供・助言を行っています。開かれたセンターとして、交流イベントや相談事業も積極的に展開しています。留学や国際交流に興味がある学生はいつでもお越しください。

●TEL/029-228-8593 ●WEB/ <http://www.isc.ibaraki.ac.jp/>
●MAP/ P.21 水戸キャンパス 共通教育棟

キャンパスマップ 水戸キャンパス

●住所/茨城県水戸市文京 2-1-1
●TEL / 029-228-8111 (代)

☎ 公衆電話 AED 駐輪場 🚲 バイク駐輪場 🍴 カフェ・食堂 🏧 銀行ATM



▲ 来客用駐車場入口

▲ 正門

図書館(本館) ①

茨城大学図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、2階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。地域の皆さまと学生がともに学ぶ無料の講座「土曜アカデミー」も開催しています。

●WEB / <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL / 029-228-8076 (本館サービスグループ)

●開館時間

開講期間中	平日	8:30 ~ 21:45
	土・日	11:00 ~ 19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30 ~ 17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29 ~ 1/3)		休館



カフェ・食堂・売店

大学生協食堂(福利センター1階・2階) ②

幅広いメニューで栄養バランスのとれた食事を提供しています。
●営業時間/[1階]平日10:00~19:20、土曜11:00~13:30、日曜休業
[2階]平日11:00~13:30、土日休業

大学生協購買・書籍等(福利センター1階・2階) ②

書籍・食品・旅行・パソコンなどを取り扱っています。
●営業時間/[購買]平日8:30~18:15、土曜10:00~14:00、日曜休業
[書籍]平日10:00~17:00、土日休業
[サービス]平日10:00~18:00、土日休業
●TEL / 水戸本部 029-225-3384

茨苑会館食堂(大学会館1階) ③

ばんどう太郎グループが運営。2016年には学生との共同企画でリニューアルし、学生考案のメニューも提供しています。
●営業時間/平日9:00~16:00、土日休業
●TEL / 茨苑会館食堂 029-232-3456

サザコーヒー茨城大学ライブラリーカフェ店(図書館1階) ①

喫茶や軽食を提供しています。テイクアウトも可。
●営業時間/平日9:00~18:00、土曜10:00~17:00
●休業日/日曜、年末年始、創立記念日(5/31)、お盆休み



サザコーヒー ライブラリーカフェ



大学生協食堂

茨苑会館食堂

展示室

図書館展示室(図書館1階) ①

年間を通して、本学所蔵資料の企画展示や、教員・学生の研究成果発表、作品展示などを行っています。開館時間は展示により異なります。入場無料。

地球環境資料展示室(理学部G棟1階) ④

理学部が収集した化石や鉱石などの資料を展示しています。
●開室時間/平日8:40~18:00、入場無料



図書館展示室

ホール等

ライブラリーホール(図書館3階) ①



講堂 ⑤



社会連携センター ⑥

地域・社会との連携の窓口です。



地球変動適応科学研究機関(ICAS)/放送大学茨城学習センター ⑦



●電車でお越しの方
JR水戸駅北口のバスターミナル7番乗り場から茨城交通バス「茨大行(栄町経由)」に乗り、「茨大前」で下車(約25分)。

●車でお越しの方
常磐自動車道水戸ICより国道50号線を水戸駅方面に進み、新原三差路交差点を県道171号線へ。直進し、袴塚1丁目交差点を左折後、袴塚3丁目交差点を右折。一本目の道を左折すると右手に正門が見えます。
※お車の方は守衛所で入構許可証を受け取り、駐車場の案内を受けてください。



来客用駐車場



キャンパスマップ 日立キャンパス

●住所／茨城県日立市中成沢町 4-12-1
●TEL / 0294-38-5004(代)

研究・産学官連携機構(N5棟)①

企業との共同研究や受託研究の推進拠点です。技術相談や研究内容に関するご質問など、お気軽にお問い合わせください。

研究・産学官連携機構 日立オフィス
●TEL/0294-38-5005
●FAX/0294-38-5240
●E-mail/ccrd-iu@ml.ibaraki.ac.jp



- 機械システム工学科 : W1、W2、W4、W5、E2、E5
- 電気電子システム工学科 : E3、E5、E6
- 物質科学工学科 : N1、N2、N6、W3
- 情報工学科 : S1
- 都市システム工学科 : S2、S3

小平記念ホール(N4棟)②

日立製作所より資金提供を受けて1953(昭和28)年に建立。ホールの名前は日立製作所創業者の小平浪平氏に由来しています。現在は学内・学外を問わず講演会や式典などの会場として活用されています。



大学生協(E7棟)③

●営業時間／
[購買書籍]平日9:30~19:20、土日休業
[食堂]平日10:00~19:20、土日休業
●TEL/購買書籍 0294-37-4231
食堂 0294-37-4092



ものづくり教育研究 支援ラボ(S5棟)④

学生や教員の各種製作などの相談を受け付けているほか、地域の子供たち向けのワークショップなども開催しています。



図書館(工学部分館)⑤

図書館はどなたも無料でご利用いただけます。図書の貸出を希望する方は、1階カウンターで利用者カードの発行手続きを行ってください。

●WEB/ <http://www.lib.ibaraki.ac.jp/>
●TEL / 0294-38-5012
(工学部サービスグループ)



●開館時間

開講期間中	平日	8:30 ~ 21:45
	土・日	11:00 ~ 19:00
(春・夏・冬) 休講期間	平日	8:30 ~ 17:00
	土・日	休館
祝日 年末年始(12/29 ~ 1/3)		休館



●電車でお越しの方
JR日立駅(中央口)から日立電鉄バス、中央線経由「平和台 豊園行」又は「多賀駅行」に乗車、「茨大前」で下車。
JR常陸多賀駅から日立電鉄バス、中央線経由「日立駅行3」又は「日立駅行4」に乗車、「茨大前」下車。いずれもバス乗車時間は約10分。

●車でお越しの方
常磐自動車道でお越しの場合は、日立中央ICのご利用が便利です。国道6号線を水戸方面に進むと左折の案内表示板があります。正門の守衛所で入構カードを受け取り、駐車場をご利用ください。

多賀工業会館⑥

茨城大学工学部、茨城大学大学院理工学研究科(工学系)ならびに前身組織である多賀高等工業学校等の同窓会「多賀工業会」の事務局です。談話スペースも用意しています。



東海サテライトキャンパス

2017年、世界的な研究施設 J-PARC (大強度陽子加速器施設) に隣接する茨城大学フロンティア応用原子科学研究センターを核とした、新たなキャンパスとして開設。大学院理工学研究科量子線科学専攻の教育・研究活動を展開しています。年1回開催しているオープンキャンパスには、東海村在住の小中学生などが家族とともに訪れ、最新の研究に触れています。

- 住所／茨城県那珂郡東海村白方162番地1
いばらき量子ビーム研究センター内
- TEL／029-287-7871



教育学部附属学校園

茨城大学には、教育学部附属の幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校が設置されています。各学校・園では、教員免許の取得をめざす学生を受け入れて教育実習を行うなど、教育学部や教職大学院の教員養成に貢献しています。さらに、大学の教員と協力し、教育に関する理論的・実践的な研究を進め、その成果を自らの教育に活かすとともに、他の公立学校などにも広く公開するなど、地域の教育力向上に大きな役割を果たしています。



附属幼稚園
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL／029-224-3708



附属小学校
茨城県水戸市三の丸2-6-8
TEL／029-221-2043



附属中学校
茨城県水戸市文京1-3-32
TEL／029-221-3379



附属特別支援学校
茨城県ひたちなか市津田1955
TEL／029-274-6711

地域の方にご参加いただけるイベント



オープンキャンパス
キャンパスを1日開放し、研究室訪問や模擬授業などにより学生生活を体験できるイベント。水戸・日立・阿見の各キャンパスで毎年7～8月の時期に実施しています。



学園祭
水戸の茨苑祭、日立のこうがく祭、阿見の秋耕祭という各キャンパスの学園祭には、地域の方々も毎年多くご来場いただいています。



公開講座
一般市民や中学生・高校生を対象とした有料・無料の公開講座を開講しています。

茨城県内の茨城大学関連施設のご案内



茨城大学五浦美術文化研究所 —岡倉天心の思想をいまに—



六角堂



天心邸 (登録有形文化財)

岡倉天心は北茨城五浦の地を気に入り、1906年に日本美術院を移し、横山大観、菱田春草、下村観山、木村武山らとともにこの地で過ごしました。研究所は天心遺跡の管理・公開を行うとともに、その功績をたたえ日本の近代美術や内外の文化・歴史研究に取り組んでいます。六角堂は2011年3月11日の東日本大震災がもたらした大津波で基部以外すべて流出してしまいましたが、多くの方々の支援により復興。敷地内の天心記念館では、平柳田中作の「五浦釣人」など貴重な作品を展示しています。

- アクセス／JR常磐線・大津港駅から徒歩約10分
- 入場料／300円 (中学生まで無料・団体割引等あり)
- 休館日／月曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始 (12/29～1/3)
- 住所／茨城県北茨城市大津町五浦727-2
- TEL／0293-46-0766



茨城大学理学部附属 宇宙科学教育研究センター —宇宙の成り立ちを探る巨大アンテナ—



日立市と高萩市にまたがった小高い公園内にある、国立天文台の口径32mの宇宙電波望遠鏡2基を使って、宇宙からやってくる電波をとらえています。

- アクセス／JR常磐線・高萩駅からバス利用
「明秀学園高萩キャンパス前」から徒歩10分
- 入場料 (宇宙電波館)／無料 (平日10時～17時)
- 休館日／土・日曜日、年末年始 (12/29～1/3)
- 住所／茨城県高萩市石滝627-1
- TEL／0293-24-9516



茨城大学広域水圏環境科学 教育研究センター —全国随一の臨湖教育施設—



北浦を臨む場所に建つセンターは、全国随一の臨湖共同教育施設としてさまざまな地域の学生などの利用を受け入れ、生態系の観察や水質調査を体験できるプログラムを提供しています。

- アクセス／成田線・延方駅から徒歩約10分、
大洗鹿島線・鹿島神宮駅から徒歩約17分
- 住所／茨城県潮来市大生1375
- TEL／0299-95-9650

キャンパススケジュール

茨城大学の1年間



茨城大学基金 Next Step

ご寄附募集のご案内

茨城大学では、地域社会や企業などの皆さま、同窓生の皆さまなどから広くご支援をいただく仕組みとして、「茨城大学基金 Next Step」を2015年に創設しました。本冊子でご紹介したように、本学では地域と世界で活躍する人材を育てるための大学改革に取り組んでおり、グローバルに学ぶ交換留学や短期研修も拡充し、学生の成長を支援する環境づくりを進めるとともに、地域に根ざし、持続可能な地域づくりに貢献しています。このような取り組みを一層進める上では、財政基盤の充実が不可欠です。社会の期待に応える大学として成長したいという本学の志をご理解いただき、さらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

寄附の種類

個人寄附

個人の方を対象に1,000円から任意の金額でご寄附いただけます。

法人・団体寄附

法人や団体、企業を対象に10,000円から任意の金額でご寄附いただけます。

古本等の売却による寄附

ご不要になった古本やCD・DVD、ゲームソフトなどをVALUE BOOKSで買い取り、その買い取り額をご寄附となります。

寄附の使途・支援事業

法人全体で寄附金を管理し、スケールメリットを活かした運用を行います。

支援者

- 個人の方
- 法人・団体
- 古本等の売却益
- 学内教職員
- 遺贈・遺言信託(受入準備中)

茨城大学基金

- 主な支援の対象
- 【一般基金】
茨城大学基金
 - 【特定基金】
修学支援事業基金
創立70周年記念事業基金
 - 全学的取組
水戸キャンパスへの支援
日立キャンパスへの支援
阿見キャンパスへの支援
 - 附属中学校生活環境
改修工事支援基金 など

茨城大学の取組事例

- ・国際交流事業、社会連携事業、産学官連携事業、大学記念事業、施設整備事業、学部などの教育研究、学生の課外活動など、大学の事業計画に基づく事業の支援
- ・授業料の減免、奨学金、留学支援、TA(Teaching Assistant)・RA(Research Assistant)にかかる経費負担などの支援
- ・学生が海外研修や地域活動などに取り組む、新しい実践的な教育環境の充実
- ・本学の歴史を、インタビュー映像や画像資料で振り返るビジュアル年表制作
- ・記念式典や記念講演会の開催
- ・福利センター(大学生協)を増築し、学生や地域の方々のゆとりある憩いの場を提供
- ・正門周辺の景観を開放的に整備し魅力あるキャンパスを創造
- ・国内外で活躍できる実践型人材養成のための教育研究環境の整備
- ・フードインノベーション棟の新設
- ・附属中学校の生活環境(トイレ等)改善のための支援

寄附の申し込み

WEBフォームから

茨城大学基金のWEBサイトにアクセスし、お手続きをお願いいたします。クレジットカード決済、銀行振込決済(窓口・インターネットバンキング・ATM)、コンビニ決済(払込票)の払込方法から選び、ご寄附いただけます。

申込書から

寄附申込書に必要な事項をご記入いただき、郵送またはFAXにて、茨城大学基金室までお送りください。寄附申込書は基金のWEBサイトでダウンロードいただくか、茨城大学基金室までお問い合わせください。申込書確認後、コンビニ決済用の振込票をお送りいたします。30万円以上のご寄附や銀行振込をご希望の方には、別途ご案内をいたします。

<http://www.ibaraki.ac.jp/fund/>

※ご入金確認後、受領証明書を送付いたします。処理の都合上、1~2ヶ月程度かかる場合がございますが、ご了承ください。受領証明書は税制上の優遇措置を受けるために必要な書類ですので、大切に保管してください。

茨城大学基金室 〒310-8512 茨城県水戸市文京 2-1-1

●TEL/029-228-8781 ●FAX/029-228-8089 ●E-mail/kikin@ml.ibaraki.ac.jp ●WEB/http://www.ibaraki.ac.jp/fund/